

1~2波勝利の地平から 中曽根打倒の末3波へ

3/22 意気高く 第14回定期委員会 勝ちとらる

日刊
動労千葉

86. 3. 24

No. 2197

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

動労千葉は、三月二二日、千葉県労働者福祉センターにおいて、第十四回定期委員会を開催し、二・一五ストを中心とする第二波闘争の成果と総括を確認するとともに、ますます凶暴化する政府・当局の反動攻撃をはねのけ、「分割・民営化」一十万人首切り阻止、86春闘・「三・三〇三里塚」五割決起を中心とする当面する取り組みについて満場一致闘う方針を確認した。

二波の闘いの意義と成果を鮮明に提起

水野副委員長の開会あいさつでは、本委員会のかちとるべき課題について、第一に、二波の闘いの意義と成果をガッチリ確認し、全体で総括・討論し、今後の展望を明らかにすること。第二に、広域配転攻撃、全国一律勤務評定強行の攻撃との対決。第三に、動労革マルを軸とする組織破壊攻撃との対決。第四に、貨物合理化、基地統廃合、さらに大規模な業務移管を中心とする「61・11ダイ改」阻止に向けた闘う方針を討議・確立することだと、鮮明に提起した。

冒頭、あいさつにたった中野委員長は、本委員会のかちとるべき課題について、第一に、二波の闘いの意義と成果をガッチリ確認し、全体で総括・討論し、今後の展望を明らかにすること。第二に、広域配転攻撃、全国一律勤務評定強行の攻撃との対決。第三に、動労革マルを軸とする組織破壊攻撃との対決。第四に、貨物合理化、基地統廃合、さらに大規模な業務移管を中心とする「61・11ダイ改」阻止に向けた闘う方針を討議・確立することだと、鮮明に提起した。

中曽根打倒へ共に闘おう

——来賓あいさつ——

来賓のあいさつにたった一億円基金代表世話人の高嶋喜久男氏は「基金は現在四五六〇万円に達している。一日も早く一億円を達成し、そのうえで長期にわたり継続して行きたい。国会での法案論議も含め、国鉄問題は、より社会問題化せざるを得ない。今こそチャンスだ、断固闘おう」と激励された。

続いてたった三里塚反対同盟の島村良助さんは、国鉄分割・民営化に怒りを叩きつけるとともに、20年の不屈の闘いで二期阻止の展望を切り拓いていることを報告し、「いかなる処分・弾圧もはねのけ共に中曽根打倒へつきすすもう。決戦の



勝利の確信固く —— あいさつに立つ 中野委員長 (3/22 労働者福祉センター)

三・三〇に総力決起しよう」と訴えられた。中江船橋市議は、十二月議会で民社党の「分割・民営化決議案」を阻止したことを報告し、今後も議会において、地域において共に闘う決意を明らかにされた。

闘う方針を満場一致決定

経過報告、国鉄分割・民営化一十万人首切り阻止、86春闘・「三・三〇三里塚」を中心とする当面する取り組み、労働協約・協定締結承認、一九八六年度暫定予算（案）について執行部より提起を受けたのち、質疑・討論に入った。

各支部からの闘いの報告、動労革マルの惨状、財政問題、今後の展望など数多くの質疑が出され、活発な討論が行われ、布施書記長、中野委員長より明解な答弁がなされ、方針を全体で確認した。

委員会宣言採択、水野副委員長の閉会あいさつ、新藤青年部長の音頭で組合歌合唱ののち、団結ガンバローを三唱し、委員会を圧倒的成功のうちに終了した。